

校内研究だより 第5号

南関第三小学校
令和7年12月 8日
研究主任：辻田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、
相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

11月21日(金)第5校時、腹赤小岩本教頭先生を講師に迎え、石田先生による1年生国語の研究授業が行われました。

1 教材名「どんな おはなしが できるかな」(光村図書 1年生下)

2 授業後のグループ協議で出された意見より

<良かった点>

・国語のスタートの定着ができていて、授業を学ぶ姿勢が一瞬で整った。

(視点1 ア)

・単元のゴール「冊子にする」「新1年生に伝える」が分かりやすい。

(視点2 ア)

・3展開③にて友達との交流が行われ、自分の書いた文を修正する児童が見られた。下書きをもとに、「」を正しく使っているか互いにチェックする姿が見られた。(視点2 イ)

・振り返りの発表意欲がとても感じられた。「～さんの考えのおかげでわかった。」「次はできるようになりたい。」という3つの資質・能力の考える、協力する、やりぬく力をふんだんに見られた。

・振り返りにおける教師の価値付けがよかったです。(視点2 ウ)

<課題・改善点>

・めあてを具体的にする。

・「」を知識面からだけでなく、図や絵を用いて現物を示すとよかったです。

・下書きの段階で「」を入れていない児童に、個別支援をしておくとよかったです。

・話全部を書き写すのではなく、二文にしぶって「○○が「」といった」に取り組ませていたら、本時のねらいが達成できたのではないか。

・なぜ、「」が必要なのか、という視点。

4 全体討議

○ めあてを達成するために、提示文は1文にしぶること。⇒主体的に考える場の設定へ。

5 共通実践事項※R7年度、これまでの「学校化」への取り組み

○キーワードの活用 ○めあて・まとめ(書き出しの提示)の流れ

○「お散歩タイム」の導入(答えが分からぬ児童に、色んな友達の考えを聞いてみよう！)

○聞きたいと思わせる問い合わせ。(児童が主体的に、聞きに動く姿勢を作る。主体的なお散歩タイム！)

6 講師 岩本教頭先生より(詳しくは、当日配付されたレジュメをご覧ください。)

○相手意識のもたせ方(「新一年生へお話をつくろう」)

○「」がなぜ必要なのか(「新一年生に分かってもらうために必要なんだ。」)

○国語は、体育のように技能をはっきりさせる。「技」をどこまで身に付けさせるかを考える。

○「熊本の学び」で大切にしたいこと⇒国語科では、単元終了時の未来の児童の姿を想定(日記、創作などの実生活の場面)

○単元の評価基準について⇒「書くこと」(主たる指導事項)に絞り、各評価基準は1つずつでも可能。

○2つの評価を意識すること。(記録に残す評価と次時に生かす評価)

